

防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

平成20年度病害虫発生予察防除情報第8号

大豆、野菜類、花き類のハスモンヨトウの防除対策について

ハスモンヨトウの発生が平年並からやや多の状況であるが、本虫の発生に好適な気象条件が続いており、今後、被害の増加が予想されますので下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. 発生状況等

- (1) 8月上旬の大豆圃場巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は4.7%(平年3.4%)、株当たり虫数は0.3頭(平年0.6頭)、白変葉発生圃場率は53.3%(平年40.9%)、平年並の発生であった。
- (2) 8月3半旬の大豆県予察圃場(無防除)調査の結果、幼虫の寄生株率は6.0%(平年2.0%)、株当たり虫数は0.0頭(平年0.2頭)、平年並の発生であった。
- (3) 8月上旬のいちご育苗床巡回調査(33筆)の結果、被害株率5.3%(平年1.8%)、発生圃場率39.4%(平年33.7%)、平年よりやや多い発生であった(図1)。
- (4) 8月上旬のアスパラガス圃場巡回調査(9筆)の寄生幼虫数(10側枝×10ヶ所)は0.2頭(前年0.1頭)、発生圃場率11.1%(前年11.1%)、前年並の発生であった。
- (5) フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(図2)。
- (6) 気象予報では、向こう一ヶ月の気温は平年より高い予報であり、本虫の発生に好適である。

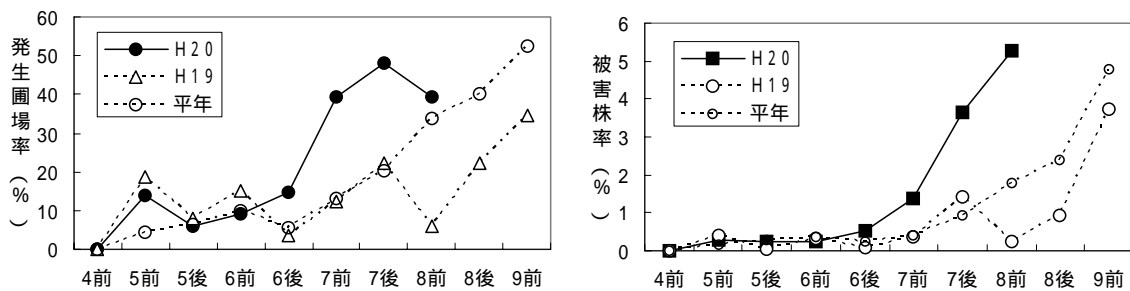


図1 いちご育苗床 ハスモンヨトウの発生推移(巡回調査)

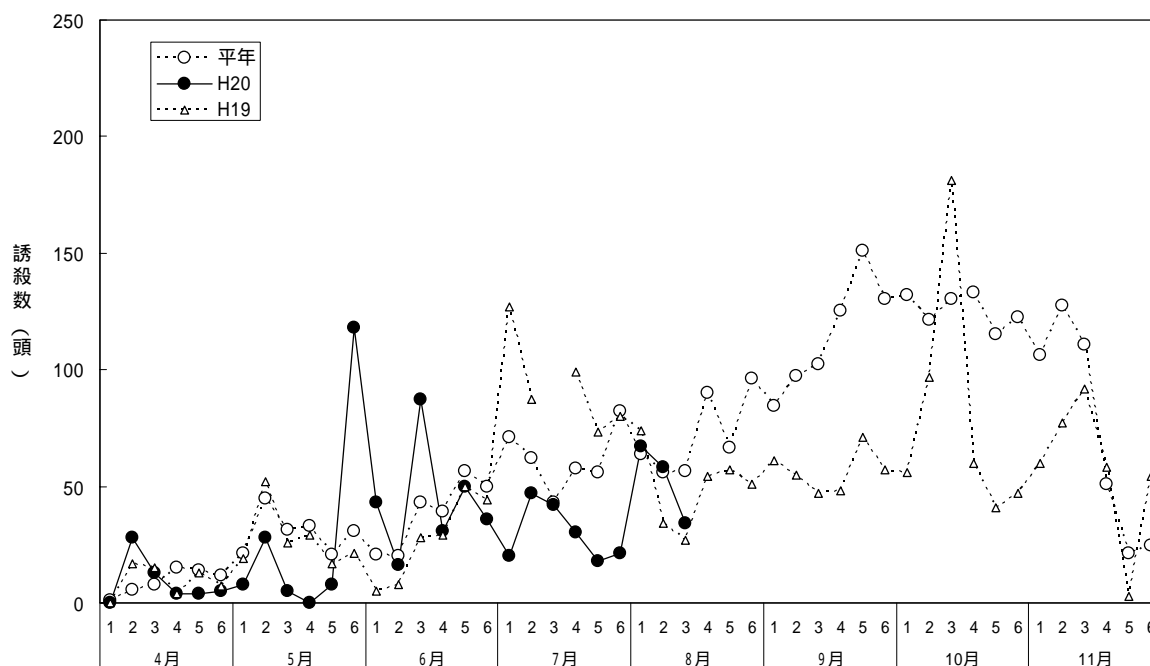


図2 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市)
 平年: H10 ~ H19の平均値(最大・小値除く)

(月・半旬)

2. 防除対策

- (1) 大豆では圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見されるようになったら早急に防除をおこなう。
- (2) 野菜類、花き類でも同様に、被害が見られたら早急に防除をおこなう。
- (3) 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に防除を行う。
- (4) 薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- (5) 施設栽培では施設開口部を防虫ネット(4mm目以下)で被覆すると、成虫の侵入防止に有効である。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL: 0957-26-0027